大杉谷国有林からの手紙

13通目　～新たな取組のご報告～

立春を過ぎましたが、まだ「今シーズン一番の寒波」という言葉が、毎日の新聞やテレビを賑わしています。

私達の仕事場、この手紙の舞台である「大杉谷国有林」も、1月中旬の大雪のため、頼み綱の大台林道が積雪と凍結により行く手を阻まれ、奥地への入山が困難な状況です。

しかし、今年度計画していた間伐や植生回復などの森林整備事業やニホンジカの緊急捕獲事業は、無事、計画どおり終了し、今は、来年度の事業に向けた準備作業を進めているところです。

２月の大台林道（加茂助滝の手前）

さて、今回は、以前の手紙でもご紹介した「大杉谷国有林の豊かな森林生態系をシカの食害から守る新たな取組」について、今年度の事業の成果と捕獲協力者である地元猟友会の皆さんのご意見（文中の橙色部分）をあわせて報告します。

大杉谷国有林におけるシカの捕獲については、昨年度までは、エゾジカで大きな成果を挙げている捕獲手法であるモバイルカリングを実証してきましたが、複雑な地形と登山者の安全確保などを考慮し、今年度は、わなによる捕獲としました。

わなの設置は、昨年９月末から１２月中旬までの70日間で、地池林道周辺に40基のくくりワナと囲いワナ（ＡＩゲート付き）１基を設置しました。

開始直後、大雨により崩土が発生し、林道が一時不通となるハプニングがありましたが、地元猟友会の皆さんが、林道を使用しても片道1時間半かかる事業地まで毎日通い、課題意識を持ちながら、捕獲に取り組んでくれたおかげで、45頭のシカ（くくりワナで42頭（成獣オス28頭、成獣メス14頭）、囲いワナで3頭（成獣メス3頭））を捕獲することができました。

囲いワナでの捕獲状況

（１）地域の担い手の育成・確保、対策コストの軽減

①地元猟友会の皆さんとは、事前・事後と２回の勉強会を行い、事業の目的を理解してもらうとともに、地域の情報（シカの特性や地形毎の対応など）も聴きながら、ワナの移動や誘引箇所の検討などを工夫しながら実施することができました。

②捕獲労力の軽減と従事者の安全確保のため、「自動撮影カメラ」、「衛星通信」、「無線通信」等を活用した捕獲システムの構築に向けた試行作業を実施し、今後の事業実施に向けたデータの収集ができました。

「シカが利用しやすい地形を考慮してワナを設置すると同じ箇所で何度も捕獲できることがわかった」、「くくりワナの場合、寒くなると土が凍ってしまい、ワナが稼働しないので工夫が必要だった」、「今回の囲いワナは移動が容易なので使える」

（２）錯誤捕獲が発生しないための捕獲手順の確立、発生した場合の体制づくり

今年度のツキノワグマ（以下、クマ）の出没件数は、1万7137件（前年度の1.8倍）と全国的に増加傾向に有ったため、錯誤捕獲を心配しましたが、①捕獲区域内に「自動撮影カメラ」を設置し、クマの出没状況を確認しながらワナの設置を行ったこと、②くくりワナの大きさをクマがかかりにくいサイズにしたこと、③クマを誘引する可能性が低いヘイキューブ（干し草を固めたもの）を使用したことなどにより、クマの錯誤捕獲やワナにかかったシカの捕食などはありませんでした。

「初めて使うワナだったので、少し心配だったが、実際にクマがくくりワナを踏んだ形跡があっても稼働しなかったのをみて、効果を実感した」、「ワナの周りを掘り返した跡やヌタ場などイノシシの形跡はあるが、ヘイキューブは食べていなかった」

（３）対象とする個体群毎の目標と期待される効果

今年度は、大台ケ原等の高標高地域から移動する「季節移動個体群」について、自動撮影カメラで確認しましたが、明確に「季節移動個体群」とわかる大きな群れや時期的に集中した個体の移動は確認できませんでした。

来年度は、この区域で、捕獲と併せて、植栽に着手し、最終目標である森林植生の回復に向けた新たな取組を開始します。

森林回復に向けて、来年度に地域性苗木を植栽する箇所

このため、「定住個体群※1」、「季節移動個体群※2」の捕獲と植生回復箇所への侵入防止は、引き続き重要な課題となっています。

「地池林道沿いで、多くのシカが捕獲できたのは、定住個体が防護柵に誘導された可能性もあるのではないだろうか」

今回の事業成果は、２月３日の「第８回大杉谷国有林におけるニホンジカ森林被害対策指針実施検討委員会」に報告し、専門家の皆さんから様々なご意見をいただきました。

私達は、今後とも、大杉谷国有林の貴重な森林植生を守るため、多くの皆さんと知恵を出し合いながら、更なる挑戦を続けていきますので、応援をよろしくお願いします。

※1：定住個体群：大杉谷を春から秋の生息地とする個体群（冬には季節移動する個体がいます。）
※2：季節移動個体群：大杉谷には生息せず、大台ケ原等のより高標高の場所から季節移動する際に大杉谷を経由する個体群

（発行：三重森林管理署　尾鷲森林事務所　地域統括森林官）